

令和4年度 地域再生計画に係る効果検証結果

地域再生計画の名称		計画開始	計画終期		
多良木町まち・ひと・しごと創生推進計画		令和4年度	令和6年度		
計画の目標					
<p>本町の人口は昭和30年（1955年）の20,091人をピークに減少しており、令和2年（2020年）国勢調査によると9,076人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所に準拠した推計では、令和47年（2065年）には総人口が2,902人となる見込である。今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退など、住民生活への様々な影響が懸念される。</p> <p>これらの課題に対応するため、町民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り活性化するまちづくり等を通じて、社会減を抑制し、持続可能なまちづくりを推進する。</p>					
事業内容					
<p>ア 多良木町を支える活力ある産業と安定した雇用を創出する事業 イ 多良木町へのつながりを築き、新しい人の流れをつくる事業 ウ 多良木町での結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業 エ 人が集い、安心して暮らせる魅力的な地域づくり事業</p>					
寄附の金額の目安					
200,000千円（2022年度～2024年度累計）					
重要業績評価指標（KPI）ア	計画時	目標値（R6年度）	実績値（R4年度）	達成状況（R4年度）	目標年月
従業者数	3,196人	3,200人	3,196人	—	令和7年3月31日
重要業績評価指標（KPI）イ	計画時	目標値（R6年度）	実績値（R4年度）	達成状況（R4年度）	目標年月
社会増減数	社会減55人/年 （令和元年から令和3年平均）	社会減45人/年 （令和4年から令和6年平均）	社会減107人/年 （令和3年から令和4年）	地方創生に効果がなかった	令和7年3月31日
重要業績評価指標（KPI）ウ	計画時	目標値（R6年度）	実績値（R4年度）	達成状況（R4年度）	目標年月
出生数	38人	50人	39人	地方創生に効果があった	令和7年3月31日
重要業績評価指標（KPI）エ	計画時	目標値（R6年度）	実績値（R4年度）	達成状況（R4年度）	目標年月
多良木町に住み続けたいと思う町民の割合	69%	70%	69%	—	令和7年3月31日
総合戦略の位置付け					
基本目標1 多良木町を支える活力ある産業と安定した雇用を創出する			多良木町における従業者数を維持する 数値目標：従業者数3,200人の維持		
基本目標2 多良木町へのつながりを築き、新しい人の流れをつくる			都市圏からの転入者を増やし転出者数を抑制する 社会減を社人研推計比10%減		
基本目標3 多良木町での結婚・出産・子育ての希望をかなえる			多良木町での出生数を維持する 出生数50人/年間		
基本目標4 人が集い、安心して暮らせる魅力的な地域づくり			多良木町に住み続けたいと思う町民の割合を維持する 町民の70%		
評価			今後の方針		
<p>令和4年度から企業版ふるさと納税を活用し課題解決に向けた事業を実施するため、本計画を策定した。 令和4年度は1件300千円の企業版ふるさと納税の寄附があり、人が集い、安心して暮らせる魅力的な地域づくり事業を実施した。 KPIの目標達成には至っておらず、今後さらなる事業の実施と寄附金額の増加に努める必要がある。</p>			<p>新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、営業活動が可能となったことから、これまで以上に本町をPRする。これにより、寄附金額を増やし、課題解決に向けた事業に取り組むことでKPIの達成を目指す。</p>		